

第3回 豊富町まちづくり計画審議会(専門部会)の結果

第5次豊富町まちづくり計画の策定に向けて、3つの専門部会に分かれて第3回審議会を実施し、10年先の将来を描く計画になることから、委員の「夢を語る会」として、まちの魅力や財産、理想のまちなどをテーマに話し合いました。

第1専門部会（教育・福祉）
第2専門部会（産業）
第3専門部会（都市計画・行財政）

2018年5月31日（水）13:30～15:30
2018年6月1日（木）10:00～12:00
2018年6月1日（木）13:30～15:30

各専門部会全体のまとめ

まちの魅力、財産、ポテンシャル

- 酪農
 - ・新規就農にとってのチャンス(土壌が整っている)
 - ・全道でも上位5～6番目の販売額
- 牛乳、セイコーマート
 - ・まちをPRできるポジティブなイメージ
- 漁業
 - ・カキ養殖の可能性
- 天然ガス
 - ・温泉と天然ガスがある稀なまち
- 温泉熱
 - ・野菜栽培などのさまざまな活用の可能性
- 温泉
 - ・全国から多くの湯治客が訪れる温泉。全国な知名度も高い。
 - ・世界に2つしかない泉質
 - ・湯治客にとってはお守りの温泉。感謝されるまち
 - ・全国各地の豊富町のつながりのきっかけ
- 自然とそれが織り成す景色
 - ・二度と同じものを見ることができない利尻富士と夕日を見ることができる自然
 - ・空や海、みどり、星空(パノラマ)など自然の豊かさ
 - ・北欧型の地形が作る特徴的な景色
 - ・海外にも誇れる大規模草地牧場
 - ・国立公園になっているのびやかなサロベツ原野の平地
- 豊富の人
 - ・奥ゆかしい人が多い。
 - ・住民が温かく、受け入れてくれる。なじみやすい
 - ・人と人のつながりが強い
- 子育て環境
 - ・地域一体になった子育てへの意識
 - ・学校教諭と児童の距離が近い。また親同士も顔見知り
 - ・こじんまりとした環境だからこその教育環境
- 豊富での暮らし
 - ・ほっと安心する便利さとは比べられない暮らしの楽しさや豊かさ、幸せがある
 - ・心癒されるなにもない環境
 - ・ふらっときたの戸書やイベントの充実
- コミュニティや交流
 - ・コミュニティや組織のつながりが強い。
 - ・おまつりが活発
- 安心安全
 - ・生涯者支援や高齢者の活躍の充実

自分たちが考える理想のまち ～こんなまちが理想

- ・基幹産業の酪農が活性化し、新規就農者が継続的に入ってきて、それを酪農家が支えている
- ・温泉熱を活用した野菜の栽培や水耕栽培など、新しい産業が生まれている
- ・ファミリーサポート制度などにより地域で子育てしやすい環境がある
- ・少人数だからこその地域ごとの学校教育が子どもの育ちを高めている
- ・湯治客が豊富のまちに定住し、まちで活躍している
- ・豊富温泉を通じて、湯治客や町外の人とのつながりがある
- ・豊富で心豊かに暮らす町民みんなが元気で、まちの魅力や価値を認識し、自慢している
- ・利便性よりも魅力的な楽しみや暮らしやすさがあり、自己実現ができる心豊かに暮らすことができる
- ・高齢者が元気でまちで活躍し豊富町を支えている
- ・困っている人や悩んでいる人を地域で解決している共生のまち
- ・地域資源の天然ガスが住民の暮らしに活用されている
- ・利尻富士が美しく眺めることができるゆったりした癒しのあるまち
- ・美しい自然に囲まれながらサイクルツーリズムを楽しめる自転車のまち
- ・「なにもない」があるまち
- ・障がい者や高齢者なども安心して暮らすことができるハンディレスなまち

第3回 豊富町まちづくり計画審議会(専門部会)の結果

第5次豊富町まちづくり計画の策定に向けて、3つの専門部会に分かれて第3回審議会を実施し、10年先の将来を描く計画になることから、委員の「夢を語る会」として、まちの魅力や財産、理想のまちなどをテーマに話し合いました。

第1専門部会 (教育・福祉)
第2専門部会 (産業)
第3専門部会 (都市計画・行財政)

2018年5月31日(水) 13:30～15:30
2018年6月1日(木) 10:00～12:00
2018年6月1日(木) 13:30～15:30

各専門部会全体のまとめ

理想のまちに向けてどんなことをしたいか(必要なことやアイデア)

■酪農の発展的継続

○新規就農受入の仕組みづくり

- ・離農する世代に代わって新しい人が入ってきてうまくまわるシステムをつくる。
- ・新規就農者と高齢化した酪農家のマッチングが必要
- ・子育てや学校などの新規就農者の生活環境の整備

○将来の酪農の方向

- ・10～20年後に酪農をどう発展させるかの方向性を考えるイメージーションが必要。

○酪農体験

- ・観光振興と酪農を知ってもらうことを目的とした、親子で宿泊体験できる酪農民泊を受け入れることができる体制

■温泉資源の活用

- ・油の温泉は大切に湯治客に使い、単純泉を観光客に共有する。
- ・お金をかけなくてもできることが大切。

■新たな産業の創出

- ・温泉熱を活用した野菜栽培、水耕栽培(空き家や遊休施設を活用しながら)。
- ・天然ガスを宿泊施設のほか、町民も活用できるようにする。

■地域でつくり支える商業

- ・まちにあるとよい店を町民が考え、町民が支えていくことができるとよい。

■広域連携

- ・道北のまちで互いの特徴を活かして支え合いながら全体で活性できるようなPR

■湯治客の定住や活躍

○湯治客の受入体制

- ・どのような人が移住してきているのかわかる見える化
- ・湯治客が住む場所、働く場所が必要

■自然の活用

- ・利尻富士を眺めながら自分の癒しの時間を過ごせる落ち着いた場所があるとよい。
- ・町民が自然の魅力と価値を認識して、町民が町外に発信・PRできるとよい。
- ・利尻富士がきれいに見えるツアーや夕焼け写真ツアー
- ・町民が好きな場所や景色、お勤めの時間などをまとめたマップやスタンプラリー

・フォトコンテスト

■サイクリングのまち

- ・サイクリングしやすい道路整備
- ・自転車のまちとしての環境整備(電動アシスト自転車のレンタルなど)

■観光振興

- ・+1泊の仕掛け(宿泊しなければできないアクティビティの充実)

■子育ての充実

○地域で子育てするファミリーサポート制度

- ・ファミサポ制度など、子どもをちゃんと見てもらえる環境があるとよい。(保育料の値下げや保育所の充実だけでなく)
- ・子どもが病気になったときに預かってくれる環境が必要。

○学校、地域教育

- ・少人数でもしっかりと教育ができる環境があるとよい。
- ・地域ごとに小学校を存続させるため、学校教諭がいくつかの学校をまわるなどの方法はできないか。
- ・地域のなかで子どもを学び育てることが重要。
- ・役場や農協による塾の開設など、豊富でできる学びの機会をつくる

■豊富暮らしのPR、まちへの誇り・愛着

○豊富の暮らしをPR

- ・豊富で暮らすこと自体をPRする。そのために町民が豊富の魅力を認識し誇りを持つことが大切。
- ・町民自らがまちのことを「なにもない」と言わない。「なにもないがある」というPRをする。

○スポーツを活かしたまちの誇り醸成

- ・オリンピックなどスポーツを通してまちの誇りを醸成する。子どもの教育にもつながる。(フリークライミングやスカッシュなど)
- ・高校に専攻コースを設ける。

■地域内の交流

- ・地域間の交流を促すための互いに知ることができる交流の機会(酪農家と温泉、異業種や異分野など)
- ・子どもが大人や高齢者と交流できる機会があるとよい。学校を超えた子どもと大人のつながりづくり。

■移住・定住

○豊富暮らしをPR

- ・豊富で暮らすこと自体をPRする。そのために町民が豊富の魅力を認識し誇りを持つことが大切。
- ・移住者も住みたいとの思いがあれば、手厚い支援はあまり必要ない。

○住むところ、住宅

- ・空き家や住宅に関する情報
- ・空き家を活用したシェアハウス、公営住宅の活用(条件の緩和)

○「衣食住」と「医職住」

- ・衣食住のうち、食と住が重要である。
- ・まちの若者に、まちの仕事を知ってもらう機会をつくる(職業紹介や仕事体験)

○移住者目線の取組

- ・移住する人がどのようなまちを望んでいるのかを町民が理解することが必要。
- ・町内外からの意見に柔軟に対応することが大切(外から来た人の目線でアピールするなど)

■町民の暮らしを支えるインフラ

○交通

- ・交通網の充実や交通確保
- ・まちなかと温泉をつなぐ交通
- ・天塩一稚内のライドシェアとの連携